

令和 3 年度第 3 回長野県住宅審議会における意見・提案要旨と対応について

| 箇所 | 発言者 | 意見等要旨 | 対応等 |
|--------------------------------|--------|---|---|
| 施策 1-1 脱炭素 | 下平委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 省エネ住宅づくりと長野県の自然を活かした住まいづくりは逆行するところがあり両立が難しい。断熱性を求めると開口部は小さいほうが良いが、自然環境を取り入れるためには開口部は大きいほうが良いなど。 ➤ ZEH100%の目標達成には、創エネの活用によってエネルギー収支をプラスマイナスゼロにする手法が不可欠である。 | <p>今年の 8 月時点で、国の脱炭素化に向けたあり方検討会において「2030 年までに ZEH 基準義務化」の方針が示されている。県はこの 2030 年より先行していきいたい考え。</p> <p>信州の気候風土を活かした住み心地の良い住まいづくりを基本として誘導する中で、ゼロエネ住宅指針を進めていきいたい考え。</p> |
| | 武者会長 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ZEH の目標指標が 100%になった経緯は。 ➤ 目標達成指標は、政策的に数値が決まる側面がある。地域や現場の実情との差を埋めていくことが県の施策に必要では。 | |
| | 柳澤恵子委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ZEH 基準を満たす住宅の新築コストに対し、県から経済支援はあるか。 ➤ 現行の ZEH に対する補助金をすべて活用するのはハードルが高いと感じる。住宅を ZEH とせんがために家庭の経済状況が厳しくなり、楽しい生活が出来ないとなっては本末転倒だと思う。 ➤ 具体的に分かりやすく、「これだけの補助があるなら踏み出そう」と感じてもらえるといいのでは。 | |
| 施策 1-1 脱炭素 1-4 強靱化 | 下平委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 耐震化と断熱性能向上の工事をセットにしてはどうか。 ➤ 外壁・筋かいの改修に合わせて断熱化を図ると合理的である。 | <p>既存ストックの改修は、状況に応じた改修や選別が必要。ゼロカーボン、耐震性やレジリエンス性の確保を推進していく施策を今後も考える必要あり。</p> <p>P46 に耐震化とあわせた省エネ改修について記載。</p> |

| | | | |
|--|-------------|---|--|
| <p>施策 1-2 地消地 産</p> | <p>田中委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 県産材の利用促進について、今後も県全体、業界全体で対応していく必要がある。サプライチェーンなどシステム構築、事業者との連携やネットワーク構築などを1-2に加えては。 | <p>地域住宅産業の育成についてはP61「産業の基盤強化」に記載しているが、P34にも記載。</p> |
| | <p>武者会長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ ウッドショックを大きなきっかけとした流通を増やすだけでなく、産業構造の見直しやあり方を考える視点は、10年計画である本計画にあってもいいのでは。 ➤ 県産材を使う内容とリンクさせると良いと思う。 | |
| <p>施策 2-3 空き家</p> | <p>小松委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 除却空き家数が指標となっているが、除却の前段階（活用等）の対策が必要。 ➤ 空き家の活用は市町村の問題かもしれないが、県内の多職種の人との連携による活用があるといいのでは。 ➤ 県民意識調査の中古住宅志向の高まりを踏まえ、計画内にアドバイスや指標があると良いと感じる。 | <p>空き家対策については、P40からの「多様な変化やニーズに応じた住まいの選択」に利活用と管理不全空き家に関する事項を記載。 指標は全国とあわせており、また、定量的に示すことのできる指標として設定。</p> |
| | <p>武者会長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 除却が目標のように感じる。 ➤ 2-1,2-2の施策でストック活用があり、最後に活用できないものが2-3で除却となることを分かりやすくしては。 | |
| <p>施策 2-3 空き家 2-4 既存住宅の流通・リフォーム</p> | <p>原委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 今年の6月に建設アスベスト被害者への給付金法が成立したが、アスベストは健康被害との関係性が発覚する前は非常にもてはやされた建材であり、住宅でも1995年頃をピークに使用されていた。 ➤ 今後これらの既存住宅のリフォームや空き家除却工事の際にアスベストが飛散するリスクが懸念されており、国でも有資格者による調査の義務付けを図るなど重要視している。 ➤ リフォーム市場拡大のためにも問題発生を防ぐための周知が必要では。 | <p>P36は居住者に関する健康被害防止について、P45、47は解体時やリフォーム時の作業従事者に関する健康被害防止について記載。</p> |

| | | | |
|--|------------|--|---|
| | 小野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 既存の賃貸住宅の空き家は、断熱・遮音性がなく質が低い、ZEH 基準を満たせないのが現状である。 ➤ 空き家を除却する前に活用することが課題であるが、相続問題やリフォーム費の捻出が出来ずに流通に上がらない住宅も多い。ファイナンスの問題は大きいと思う。 | 既存ストックについても補助制度等で省エネ化を進めたい。 |
| 3-3 信州の 魅力 | 平賀委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 移住者にとって森に近い暮らしは信州らしさとして大きな魅力であり、継承すべき暮らし方である。信州のポテンシャルとして、農ある暮らしに加え、森に近い暮らしの視点も加えたい。 ➤ 信州なのに東京の基準で作られている開発が見受けられる。環境に関心のある人たちが集まり、信州の豊かさや価値観を共有できるような中規模のエコビレッジを提案できないだろうか。 | P55 に農ある暮らしだけではなく里山暮らしについても記載。 |
| 施策 4-1 公営住 宅 4-2 セーフ ティネ ット | 柳澤玉枝 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 公営住宅の供給目標を示しているが、建物・器だけでなく、身元保証人がいないと入居できない人への対策が必要である。 ➤ パブコメ提案意見 No.30 に県内の社会福祉協議会の「入居保証事業」の実績について記載すべきとあり、実際に調べてみると二百数十人の利用があり、そのうち6割が公営住宅を利用している。この事業により安心して住宅の確保が出来る事を評価してはどうか。 ➤ 提案意見 No.30 への回答も参考に留めず、行政施策による民間支援など10年後の将来を見込んだ施策に県は取り込む必要がある。 | P61 に公営住宅の連帯保証人制度についてのあり方の検討について記載。 民間賃貸住宅（登録住宅）に係る入居保証についての行政施策の検討について記載。 |

| | | | |
|--|-------------|---|---|
| <p>施策 4-2 セーフ ティネ ット</p> | <p>小松委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 居住支援協議会の設立について、市町村が設立するとある。一方で、県内の実績は1自治体である状況を踏まえると、指標達成のためには県から自治体への支援が必要である。 | <p>P69 の下図に県の役割として市町村の居住支援協議会設立の支援について記載。</p> |
| <p>基本 理念・ 視点 概要版 2 枚目</p> | <p>古後委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ I 住まいの姿とII 住みこなしの内容が離れているように感じる。 ➤ 住まいの姿では、新築建物に対する理想の形が書かれており、非常にお金が掛かるのでは。新築住宅の状況もウッドショックなどで変わってきている。 ➤ 一方、住みこなしはストック活用であり、流通を促す記載がある。住まいの姿にもストック活用やリフォーム支援などの方策があると良いと感じる。 | <p>住まいの姿については、ゼロカーボンに向けて、一つの理想形として記載。 既存ストックについては、省エネ基準への適合状況によって良好なストックを選別し長く活用することが望ましい。年数が経過したストックについては、省エネ性能を上げるにも技術レベルのハードルが高くなるのが実情。 P20 下図の表現について、「新築・リフォーム」と記載。</p> |
| | <p>田中委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 住まいの姿に一文でもリフォームがあると良いのでは。新築だけでなく、ストック活用が大事。 | |
| | <p>下平委員</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 信州住まい方ビジョンの「信州らしさ」、「居心地・心地よさ」の中に、「自分らしさ、個性を活かせる」などを加えては。 ➤ 快適性・利便性だけが幸せではない、スローライフや豊かに暮らすことは信州での暮らしと結びつく。 ➤ 信州らしさに自分らしさという表現が加わると、より人の心に飛び込むことができるのでは。 | |